

会議の名称		予算特別委員会 総務文教分科会		会議場所 第3委員会室
				担当職員 井上
日時	令和2年3月16日(月曜日)			開議 午後 4時30分
				閉議 午後 5時35分
出席委員	◎山本 ○松山 三上 浅田 木村 福井 木曾 石野			
執行機関出席者				
事務局	井上事務局次長			
傍聴	<input checked="" type="checkbox"/> 可・ <input type="checkbox"/> 否	市民 0名	報道関係者 0名	議員 0名

## 会 議 の 概 要

16 : 30

### 【委員間討議】

#### <山本委員長>

予算特別委員会総務文教分科会を再開し、委員間討議、討論・採決を実施する。先ほどの市長質疑では、環境厚生、産業建設に関する内容もあったが、それについては全体会で取り扱うこととし、ここでは総務文教の内容についてのみ取り扱う。付託議案の討論に入る前に、今回の議案について賛否の判断に問題等があると判断される場合には委員間討議の実施を諮りたい。委員間討議の必要性があるような事案はあるか。

#### <三上委員>

ふるさと学習推進経費の答弁時の理事者の認識が、あのようにながな状態であったということは象徴的である。教育効果とは関係なく、行けばいいというところが透けて見える。少ない財源をもっと効果的に、子どもの教育のために使うべきだと思う。市長質疑に上げたすべての項目が、議会としてこれまで問題視してきたことであり、それに対して、先ほどの質疑を聞いて、このまま通していいのかという思いを持った。1から5までのすべての項目において、もう一度、各委員の意思確認をしてもらいたい。

#### <木曾委員>

市長質疑において、かめおか霧の芸術祭、ふるさと学習については、市長が、重要性もさることながら、新型コロナウイルスのことを考えると、場合によっては削減しなければならないというようなことをおっしゃった。その通りであると思うので、反対というよりも、附帯決議を付けて、しっかりとそこを押さえていく必要があると思う。移住・定住促進経費、文化振興経費、その他の市政運営全般に関しては、財政的な問題もさることながら、市政の施策の方向性を言っていくべきだと思うので、この3つについては指摘要望でいいと思う。そういう形の中で議論をしていく方がいいのではないかと思う。

#### <石野委員>

かめおか霧の芸術祭、ふるさと学習については、市長もおっしゃっているので、附

帯決議を付けたらいいと思う。

<福井委員>

1の移住・定住促進経費については、年限も切ったので、指摘要望まではしなくてもいいのではないか。3の文化振興経費については、かめおか霧の芸術祭を基盤として農業や環境に広げており、まだ増やすかもしれない。市長があれほど話さないと理解が得られないということは、市民理解はなかなか得られないだろうと思った。今年城下町に入っていくと言っていたが、市民にも理解が得られる進め方をするよう言うべきだと思う。5のふるさと学習推進経費は、分科会で柔軟に対応するようと言っているのだから、その担保は取りたいと思っている。

<木村委員>

5のふるさと学習推進経費については、新型コロナウイルスの関係から、実施時期について念押しした方がいいと思う。慌てて実施しなければならないことでもないと思う。

<木曾委員>

私の質疑に対し、市長と教育長と産業観光部長とで意思統一ができていないのには驚いた。予算を出した内容について、しっかり答えるというのは当たり前のことであって、市長質疑でのあのようなふるまい自体が間違っている。根本的に、議会に対して失礼である。ふるさと納税は自由に使ってもいいとか、そういう意識がこのような結果を招いている。もっとしっかりしろという意味も含めて、言うべきだと思う。

<三上委員>

1の移住・定住促進経費は、3年を目途にという具体的なことを言われたが、それをどう評価するかということについて、委員の皆さんのご意見を聞きたい。2の市政運営全般に関しては、おおざっぱなことになるので委員間討議は取り下げる。4の地域交流促進経費については、木曾委員の質疑にしっかりと答えたのかという点に疑義が残るが、皆さんが納得されているのであれば、委員間討議は取り下げる。

<木曾委員>

1の移住・定住促進経費については、人数と年数まで言われたので、それ以上は言わなくてもいいのではないかと思う。それを超えていったら、ちょっと待てと言わなければならないと思うが、あと2年ほどと明言されたことは尊重したい。2の市政運営全般に関しては、市長質疑の中で市長が答えられたのでいいのではないか。4の地域交流促進経費については、私が何度も指摘してきたが、市長が政治的判断の中で、自分で指摘されたことに対して、責任を持ってやると言われたので、それ以上の答えはないと思う。1、2、4は市長質疑で了としていいのではないかと思う。

<山本委員長>

1の移住・定住促進経費については、3年を目途に、実績を鑑みて今後所管替えも考えていくという市長の答弁を了承とする。3の文化振興経費と5のふるさと学習推進経費については、附帯決議を付けるという意見であるがどうか。

<木曾委員>

かめおか霧の芸術祭については、市民にまだ浸透していないということが一番の問題点だと思う。あわせて、事業費を500万円追加した。H商店街で行う分が増えるということだが、十分な説明が必要なのではないか。今、千歳町でやっているこ

とについても疑義があるのに、心配される部分もあるので、ここは附帯決議を付けてしっかりと押さえていく必要があると思う。ふるさと学習については、私の孫が3人とも、既に入場券をもらっている。その上、また行く必要があるのかということも含めて、実施については柔軟に対応するよう、附帯決議を付ければいいのではないかと思う。

<山本委員長>

1つずつ進める。3の文化振興経費、かめおか霧の芸術祭についてご意見をいただきたい。

<三上委員>

松山副委員長は、目標達成という意味のゴールについて市長質疑で質問された。私は、ある程度のところで終わればよい事業ではないかという意味のゴールについて質問をした。本当に肝入りで大事なことだと言いながら、答弁を聞くとそうでもないのかなと感じた。

<木曾委員>

市長は、いろいろな芸術家たちと出会った中で、かめおか霧の芸術祭のようなことも必要になってくるのではないかという発想が生まれたのではないか。そもそも市長の考えではなく、芸術家たちの意見を聞きながら、いろいろなコラボが出てきたのではないか。そこはもう少し慎重になるべきなので、市長も期限を切ると言われているので、期限を切って終息して次の段階に入るようにということを、きっちり言った方がいいのではないか。

<山本委員長>

目標を達成した上で期限を切るという意見と、こちらで目途を付けてやめるという意見があるがどうか。

<福井委員>

期限は切ればいいが、スタートから4年目ということだ。予算も増えていっている。やおやおや、フライバッグなど、市民が理解できないことをベースにして事業が展開しているのはどうなのか。市長があれだけ話をしないと理解できないことを、市民が理解できるわけがないので、そこは明確にしてほしい。1番に切られるような事業から、他の事業に展開させないでほしいと思う。市民にわかる事業をしてほしい。

<三上委員>

市長は行動力があり、トップセールスもされて評価されることもあるが、今回も官学協働で、KIRICafeのように大学に任せているものもある。そうになると、一定続けなければならないのではないか。いろいろと質問した最後に、より発展する事業になりますようにと言った議員もいたが、焦点化して目標を達成するという発展であればいいが、あれもこれもと発展させられると歯止めが利かなくなるのではないかと思う。

<木曾委員>

2の市政運営全般に関して、市長は、スクラップ・アンド・ビルドと言いながら、3の文化振興経費では、財政のことを考えた時に、厳しくなったら1番に切らなければならないと感じておられるということは、市民理解もさることながら、事業自体を、仲山副市長に来ていただいて、地方創生の取り組みをしていただいた功績を称えてされたという部分も無きにしも非ずである。今年中にお帰りになるようだが、

一定の目途を付けるべきだということは事実だと思う。そこを切り口として、きっちりと総務文教分科会で整理しておく方がいいのではないか。来年、また500万円上積みしたということにならないようにしておかなければいけない。重点施策をやるためには、この事業についてはスクラップ・アンド・ビルドになる可能性もあるということをごどこかで強調しておかないと、市民理解は得られない。

<山本委員長>

市民理解が得られていないし、重点施策を進めていくには、スクラップ・アンド・ビルドで期限を決めて実施すべき事業になるということである。ふるさと学習推進経費についてはどうか。

<三上委員>

企業から寄附があって、子どもたちに入場券が配られたのであれば、今回の補正予算で、歳入の寄附金に入って、歳出で入場券を全員に配ったという説明があるべきなのではないか。それはなくてもいいのか。

<福井委員>

寄附金は、市に入っているかどうかはわからない。大河ドラマ館へ入ったのか、観光協会へ入ったのか、確認しないとわからない。2月に寄附で入場券を配ったことは間違いない。

<木曾委員>

教育部のP7を見ればわかる。京都スタジアム・大河ドラマ館見学に関する部分の財源内訳は、一般財源である。教育長がおっしゃった通り、教育費の中でやろうとしている事業である。

<三上委員>

事前に入場券を配っている問題は、5のふるさと学習推進経費とは切り離すべきことだと思って、あの場では言わなかった。聞けばよかったのだが、減免とおっしゃったが、無料ということか。これは純粹にバス運行経費だけということか。

<山本委員長>

そういうことである。

<木曾委員>

新型コロナウイルスで、子どもたちの授業が大変な状況になってきている。4月に入っても授業ができないということになれば、授業時間が足りなくなる。そうなれば、このようなことをやっている時間があるのか。行くかわりに、ふるさと学習ができる副読本があるので、それで勉強するようにつなげた方がいいのではないかと思う。

<山本委員長>

副読本は、3年生が対象と聞いたが、3年生でもらったら、4年生、5年生、6年生と持っていて、1年生、2年生は持っていないということか。

<三上委員>

1年生、2年生には社会科がなく、生活科である。

<木曾委員>

大規模校については、教育委員会のマイクロバスが使えなければ京阪京都交通のバスを借りなければならないので、その予算もここに入れたということだが、今の新型コロナウイルスの状況から、密室の空間に大勢を乗せるのは問題だ。実施は、早い時期にと考えているようだが、無理だと思う。

<福井委員>

350万円の予算の根拠として、対象となる子どもが何人で、バスが何台かを聞くべきだった。普段の事業には、市のバスを使っているのだから、台数を言わないということは、いい加減な計画なのではないか。

<木曾委員>

スクールバスの運転手に、契約時間外に来ていただくお金も入っているという説明であった。

<木村委員>

事業実施時期は、新型コロナウイルスが終息した後、1校が1度に行かなければならないこともないので、できるだけ市のバスを使ってもらって、実施する前に計画書を出してもらえばどうか。

<木曾委員>

今出ているこの予算で、時期をずらして実行するという方法と、今回の新型コロナウイルスにより実施困難な状況になったら、時期をみて取りやめも含めて考えるという方法の2つあると思う。それをどうまとめるかで、附帯決議の内容も変わってくる。私は、大河ドラマ館の入場券は既に配っているのだから、わざわざ時間をつぶして行く必要はないという思いがあるので、できれば後者の方で整理できるように持って行くのがいいと思う。

<山本委員長>

新型コロナウイルスが終息してから実行するというのと、この事業を止めるということも含めて、柔軟に対応していただくということの2点あるがどうか。

<三上委員>

予算を使わなくても議会は怒らないから、不執行でもいいですよということか。

<木曾委員>

そういうことである。

<石野委員>

柔軟に対応すべきだと思う。大河ドラマ館は、来年の1月11日までやっているのだから、新型コロナウイルスが終息してから行けばいいと思う。

<浅田委員>

時期をずらして、行ける状況になれば行ってもらいたいと思う。

<松山副委員長>

新型コロナウイルスの状況から、今はやるべきではない。この事業は止めた方がいいと思う。

<三上委員>

根本の問題として、新型コロナウイルスが新学期の4月にずれ込めば、授業日数が足りない。新型コロナウイルスが終息したとしても無理だろう。今日の教育長の答弁では、素晴らしい施設を子どもたちに見せるということであったが、それは既に無料で配った券で見に行ける。社会科に位置づけるのかということでは聞かなかったが、教育の目標とか、教育課程の中でどう位置づけるのかということがない。だから、そういうことに授業を使ってほしくない。今、空手体験や、環境ロボットなど、いろいろなことが授業に取り込まれている。議会の子ども議会や中学生議会は、時間がないと断られている。現場感覚を大事にすべきだと思う。

<木曾委員>

京都スタジアムに関しては、竣工前から見学会があり、内覧会も何回も行っている。既に子どもたちは行っている。大河ドラマ館はまだ行っていないが、入場券を1枚ずつ渡している。それで十分だ。それなのに、なぜ授業時間をつぶしてそのようなことをしなければならないのか。明確な理由がないので、難しいと思う。

<福井委員>

バスの予算配分も、いつ行くかもわからない。市内の社会見学は、学校ごと、学年ごとに行くのでわからないものではあるが、2月に配った券は、まだ行っていない人もあるだろう。学校から行く必要はないと思う。

<山本委員長>

時期をずらして行ってほしいという意見と、京都スタジアムは既に見学しており、大河ドラマ館は券を渡しているし、教育長の趣旨を聞くと、すばらしい建物なので見学をさせてあげたいということであったので、それはもうなされていることであるという意見と2つある。

<木曾委員>

京都スタジアムは、おそらく施設を1周見学するだけだと思う。その帰りに大河ドラマ館に入るということだろう。試合を見に行くわけではない。試合は、この前、チケットを配布した。それは済んでしまっている。内覧に興味を持てるのかということもある。歴史に興味を持っている子どもは、大河ドラマ館に行きたいと思うだろうが、興味がないから行きたくないと言っている子どももいる。無理やり行って、何の意味があるのか。このようなどころにお金を使わず、文化資料館の見学に行く方がいいのではないか。大河ドラマ館の入場者数を増やすことばかり考えているのではないか。

<山本委員長>

ふるさと学習については、新型コロナウイルスの状況によりなくすことも含めて柔軟に対応していただくということを入れて、附帯決議にすることでいいか。また、かめおか霧の芸術についても、附帯決議をつけるということでもいいか。

— 全員了 —

<山本委員長>

それでは2点、附帯決議を付けさせていただく。

<事務局次長>

附帯決議の文案を決めていただくことになる。かめおか霧の芸術祭については、市民理解が得られていない。重点施策を進めるためには、スクラップ・アンド・ビルドをして期限を決めていかなければならない事業になるとまとめていただいたが、それでいいか。

<福井委員>

賛成が前提なので、市民が理解できていないでなく、市民に理解してもらわなくてはならない。そして期限を決めなさいということである。

<木曾委員>

財政と期限と市民理解の3つである。

<山本委員長>

文言は、この3つを入れて考えさせていただく。ふるさと学習推進経費は、新型コロナウイルスの影響により授業時間の不足が見込まれるので、中止も含め、柔軟に対応されたいとさせていただく。

(委員間討議終了)

## 【討論】

<三上委員>

令和2年度一般会計予算に反対の立場で討論する。予算の中には、市民福祉の増進に関わる絶対に必要なものが含まれているので、全てを否定するものではない。本会議で、不要不急なものを削除し、本当に施策に求められるところは手厚くするような修正案も出せればと思っている。詳しくは本会議で説明する。

<木曾委員>

本案全体を通して、賛成の立場で討論する。いろいろと指摘する部分はたくさんあったが、一定、市長質疑でも答弁をいただいたので、それを了として、本会議で詳しく述べる。

<浅田委員>

賛成討論をする。附帯決議も付けた中で、詳しくは本会議において述べる。

(討論終了)

## 【採決】

第1号議案 令和2年度亀岡市一般会計予算所管分 **挙手多数** 可決 (反対：三上)

第7号議案 令和2年度亀岡市曾我部山林事業特別会計予算  
**挙手全員** 可決

第11号議案から第40号議案まで

令和2年度亀岡財産区外29財産区特別会計予算  
**挙手全員** 可決

令和2年度亀岡市一般会計予算所管分に対する附帯決議(案)  
**挙手全員** 可決

<山本委員長>

分科会委員長報告の作成に当たり、特に意見があれば伺う。委員長報告に関しては、本分科会の審査経過を全体会に報告するものである。全体会に報告すべき事項はあるか。

<木曾委員>

委員長報告には、1項総務費云々ということは必要ないと思う。総務文教分科会で議論した内容を集約して、委員長報告をしていただいた方が、我々がどういう審査をしてきたのかということがよくわかると思う。たとえば、移住・定住促進経費について、議論の中で、将来的には観光振興施設にすべきという意見が出た、という書き方でいいのではないか。

<三上委員>

市長質疑項目は、全議員が把握している。5項目の中でなお委員間討議するものとしてあがった2項目について言ってもらい、後は市長質疑で了としたということで、省いてもいいのではないか。

<山本委員長>

市長質疑項目については、簡単に述べて、その中でも2点、こういう意見が出たということを書くということでもいいか。

<福井委員>

附帯決議は議案になるので、残りの3項目について、指摘要望に至らない経過報告を書いてはどうか。

— 全員了 —

<山本委員長>

内容、語句については正副委員長に一任願う。明日の午前10時から委員長報告の確認をお願いします。

散会 ～17:35